

# エリア1 安来市・能義郡

中海にそそぐ伯太川と飯梨川流域は、県内で最も古墳が集中する地域のひとつです。この二つを注目しておきたいのは、飯梨川を境にして西と東では古墳の様子が異なっているという事実です。四世紀の古墳は、川の西側の荒島地区に造山1号墳などの大きな方墳が見られるのに対して、東では小さなものしか見られませんが、東では前方後方墳はまじりたく見られず、二〇〜三〇メートルの小さな前方後方墳が多数見つかっています。六世紀後半以降は、西で石棺式石室などの横穴式石室と横穴墓が造られるのに対し、東では県境にある神代塚古墳を除いて、西のものと同じく似た横穴墓だけが見られます。



## 1 日向峰古墳群

この高いところにもある

## 2 森木峰古墳群

能義郡伯太町赤屋横屋 (上の台緑の村)



公園の入口をはいり奥へ進むと、日向峰古墳群の標柱が見つかります。そこには全長一〜一三メートルの県内でも最小クラスの前方後円墳(写真左上)があり、標高も三〇メートル以上と、県内でもかなり高い場所にある古墳といえます。森木峰古墳群は公園入口の右手斜面にあり、ここにも標柱が立っており、横穴式石室が露出していますが、天井石は玄室の部分だけ残っており、内部も土砂でほぼ完全に埋まっています。二つの古墳の間や周囲には、一〇メートル前後の小さな古墳が五〜七基ほどあるようですが、道によって半分はなくなつたものもあり、はっきりはわかつていません。公園に来たときに、ついでに見てほしい古墳群です。上の台にはこのほかにも多くの古墳が見つかっていますが、古墳を造るには普通では考えられない高所であるため、何か特別な理由があるのかもしれない。

## 3 佐々彦神社裏古墳群

落ち葉の季節に

## 4 王陵の丘

県内最古の古墳群



足立美術館北西の山際、佐々彦神社裏の丘陵上にあります。前方後円墳二基と、その間に円墳、あるいは方墳が三基確認できています。北端の前方後円墳は、群中最大で長さ約三〇メートル、高さは約三メートルあります(写真)。斜面には横穴墓も存在します。草木が茂つていますが、晩秋〜初春が見学しやすいでしょう。

JR荒島駅の南西の丘陵上にある古墳群で、最近公園として整備されました。県内最古の古墳の一つと考えられる造山1号墳、同3号墳、五世紀の前方後方墳である同2号墳など、五〇メートル前後の大規模古墳が集中し、まさに「王陵の丘」にふさわしい古墳群です。国道九号線からもよく見えます。説明板あり。

## 5 毘売塚古墳 県指定

伝説を持つ古墳

JR安来駅南東の丘陵頂上にある、全長約四〇メートルの前方後円墳。一九六六年に調査され、舟形石棺内部に人骨が残っていました。石棺は現在埋め戻され、石碑が立っています。石段が途中で急になっていて、部分部分が古墳の裾に当たります。この古墳にまつわる伝説は第五巻『出雲風土記』を歩くにあります。



## 6 矢田古墳群 市指定

見所たくさん、行くのはつらい



古墳群はいくつかのグループに分かれており、それぞれ名前が付いていますが、ここでは矢田古墳群として紹介します。県内では数少ない縦穴式石室や、石棺を持つ横穴墓を見ることができ、古墳研究者には名の知れた古墳群です。南側の縦穴式石室を持つ古墳から北に七〇メートルほど尾根上を歩くと、家形石棺(写真)を持つ横穴墓群があります。途中は古墳だらけで、埴輪や土器も見つけることができます。非常に見所が多い古墳群ですが、道がないに等しい所にあるので、慣れない人にはおすすりません。

# エリア2 島根半島

島根半島を外海(日本海)に面する側と内海(宍道湖・中海)側に分けてみると、四世紀ごろの古い古墳は島根町を除いてほとんどが内海側にあります。しかし六世紀後半以降の横穴式石室や横穴墓は各地に多数見られ、現在漁港となつている地域にも必ずと



いってよいはずが存在します(大社町にほどなく古墳が見られない点はナンです)。こうした外海側の小地域の古墳は、まだ十分な調査ができていませんが、一つひとつの古墳が古墳時代以降に対応していたのかという重要な問題を解決するうえで、欠かせないものと見えています。

## 1 海崎古墳群

美保関小学校東から軽尾港へ抜ける峠の道路脇にある古墳群です。西側の三号墳は横穴式石室で、玄室前側の天井石がはらずされており、そこから中にはいることができます。一号墳は天井石がはらずに中が見えますが、縦穴式石室と箱式石棺の両方の特徴を持った珍しい石室です。峠にあるので、どちら側の人たちが造つたのか気になります。

